

# 就学時健診で見つかる弱視 —幼児の弱視はすぐに治療が必要—

就学時健診(小学校入学前)で「右眼は2.0ですが、左眼は0.1です。弱視の疑いがあるので、眼科専門医に受診を！」というお子さんが時々いらっしゃいます。片眼だけなので、お子さん自身も御両親も健診を受けるまで気づいていません。御両親は「普段、目が見えにくそうな仕草は無いのに」と戸惑ってしまいます。およそ30人に1人の割合と、決して稀ではありません。

## 弱視とは？

原因がなんであれ、メガネをかけても視力が0.4以下の状態を「弱視」といいます。小学校入学後に、黒板や教科書を不自由なく見るには0.7の視力が必要です。将来、自動車免許を取るときにも0.7が必要です。「俺は裸眼視力が0.1しかないが、メガネで免許はとれるよ」という状態は、弱視ではありません。

## 原因は？

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は0.01くらいで親の顔がぼんやりと見える程度です。1歳では0.1くらい、4～5歳で1.0にまで成長します。途中でこの成長が止まっているのが弱視です。ほとんどの場合「遠視」が原因です。



## 遠視って何でしょう？

大人でメガネを掛けている人では、ほとんどの人が近視です。近視ではメガネを外すと、遠方(遠くの山など)はぼやけて見づらいますが、スマホは目を近づければはっきりと見えます。なぜなら近視は眼球の内側にピントが合っているからです。ところが遠視は、眼球の外側(ずっと後ろ)にピントがずれていて「近くも遠くも見えない」状態です。

## 治療は？

遠視を精密に測定して、それに合ったメガネをかければ、ピントが合うようになります。視力は速やかに回復して「弱視が治った！」ということになります。遠視自体は変化しないので、メガネを止めることはできません。

## 3歳児健診も重要

発見が早いほど治療の効果が出るので、3歳児健診の時に弱視が見つかるのが理想的です。しかし視力検査は3歳のお子さんにはうまくできないことも多いです。就学時健診は弱視発見と治療開始の重要な機会です。

【眼科診療部長 丸山 泰弘】

